

植物防疫基礎講座：カブリダニ科の見分け方(5)

ムチカブリダニ亜科 (4)

鳥取大学 (名誉教授) 江原昭三

III-6 ニセムチカブリダニ属 (*Proprioiseiopsis*)

雌の背板には16対の胴背毛がある。この属はムチカブリダニ属 (*Amblyseius*) によく似るが、J2毛を欠く。I脚には通常、巨大毛をもたない。IV脚は常に3巨大毛をもつ。和名は、ムチカブリダニ属に似ることによる。日本から2種が知られる。

ニセムチカブリダニ属の日本産の種への検索表 (雌)

- 1 z4はs4の起点に届く……ゲンヤカブリダニ(40)
 — z4はs4の起点に届かない……サイタマカブリダニ(41)

(40) ゲンヤカブリダニ *Proprioiseiopsis scurra* (WAINSTEIN and BEGLJAROV) (図-17, h~k)

雌：Z5, Z4, s4, z4は、それぞれ89, 69, 72, 58 μ m。z4はs4の起点に届く。他の胴背毛の長さは、これらには及ばない。S2はZ1の約2倍の長さ。受精囊の頸部は漏斗形。II・III脚膝節は巨大毛をもつ。胴長410 μ m。雄：胴長330 μ m。北海道；シベリア，カザフスタン。日本では、北海道サロベツ原野のホロムイイチゴから採集された (和名の由来)。

(41) サイタマカブリダニ *Proprioiseiopsis nemotoi* (EHARA and AMANO) (図-17, a~g)

雌：背板は側縁に沿ってわずかな条線がある以外は平滑。Z5, Z4, s4はそれぞれ98, 70, 55 μ m。他の胴背毛は短小。受精囊の頸部は杯状。II・III脚膝節に巨大毛。胴長360 μ m。本州，四国，母島，奄美大島；韓国。日本では、ナシ，ナス，イタリアンライグラス，グンバイヒルガオなどから見ついている。和名はタイプ産地 (埼玉県久喜市) にちなむ。

III-7 モリカブリダニ属 (*Okiseis*)

モリカブリダニ属はS4とJ2を欠き、S2とS5をもつことが特徴である。雌のR1が背板上にある種と、板間膜にある種とがある (背板上の胴背毛は15~16対)。また、背板の側縁がR1の後方に切れ込みをもつものと、これを欠くものがある。I~III脚には巨大毛がない。

和名の“モリ”は守るの意味である。日本には2種がいる。

モリカブリダニ属の日本産の種への検索表 (雌)

- 1 背板はR1と側縁後部の切れ込みをもつ……シマモリカブリダニ(42)
 — 背板はR1も側縁後部の切れ込みもない；R1は板間膜上にある……ハマナスカブリダニ(43)
 (42) シマモリカブリダニ *Okiseius subtropicus* EHARA (図-3, a, b, 図-18, a, b)

雌：背板には彫刻模様がある。背板は16対 (R1を含む) の胴背毛をもち、R1の後ろに鋭い切れ込みがある。胴背毛にはとび抜けて長い毛はない。受精囊の頸部は杯状。腹肛板は細長い。IV脚の基附節と末附節に巨大毛。胴長300 μ m。本州，沖縄本島，石垣島；中国，台湾，フィリピン，オーストラリア。日本ではオオハマボウ，アカメガシワ，カンキツなどから知られる。ミカンサビダニなどツシダニ類の捕食者 (EHARA et al., 1994)。和名は、タイプ産地 (糸満市) を含む沖縄県を護って欲しいとの願いを込めて命名した (筆者の採集時も原記載発表時も、沖縄県はまだ米軍の占領下にあった；EHARA, 1967 a)。

(43) ハマナスカブリダニ *Okiseius maritimus* (EHARA) (図-18, c, d)

雌：背板は彫刻模様をもつ。背板の側縁には鋭い切れ込みがない。R1は板間膜上にある。胴背毛中、Z5が最長 (79 μ m)，他毛の長さは多様。受精囊の頸部はほぼV状。IV脚は膝節，脛節，基附節，末附節にしゃもじ状の巨大毛をもつ。胴長400 μ m。雄：胴長280 μ m。北海道，本州でハマナス，ヤナギから知られる。中国にもいる。和名は、タイプ標本がハマナスから得られたことによる。

III-8 コンボウカブリダニ属 (*Amblyseiuella*)

本属では背板の側縁がs4の近くに切れ込みをもつ。S4, S5, J2がなく、S2は存在する (背板上の胴背毛は14対)。IV脚は、末端が結節状~へら状の4本の巨大毛 (膝節，脛節，基附節，末附節に各1) を有する。属の和名は棍棒状の巨大毛にちなむ。日本から2種が既知。

コンボウカブリダニ属の日本産の種への検索表 (雌)

- 1 受精囊の頸部は縦が幅よりも短い……ナンボウカブリダニ(44)

A Guide to the Phytoseiid Mites of Japan (Acari: Phytoseiidae).
By Shōzō EHARA

(キーワード：分類，形態，同定，カブリダニ科，ムチカブリダニ亜科，検索表，ニセムチカブリダニ属，モリカブリダニ属，コンボウカブリダニ属，ウルマカブリダニ属，キイカブリダニ属)

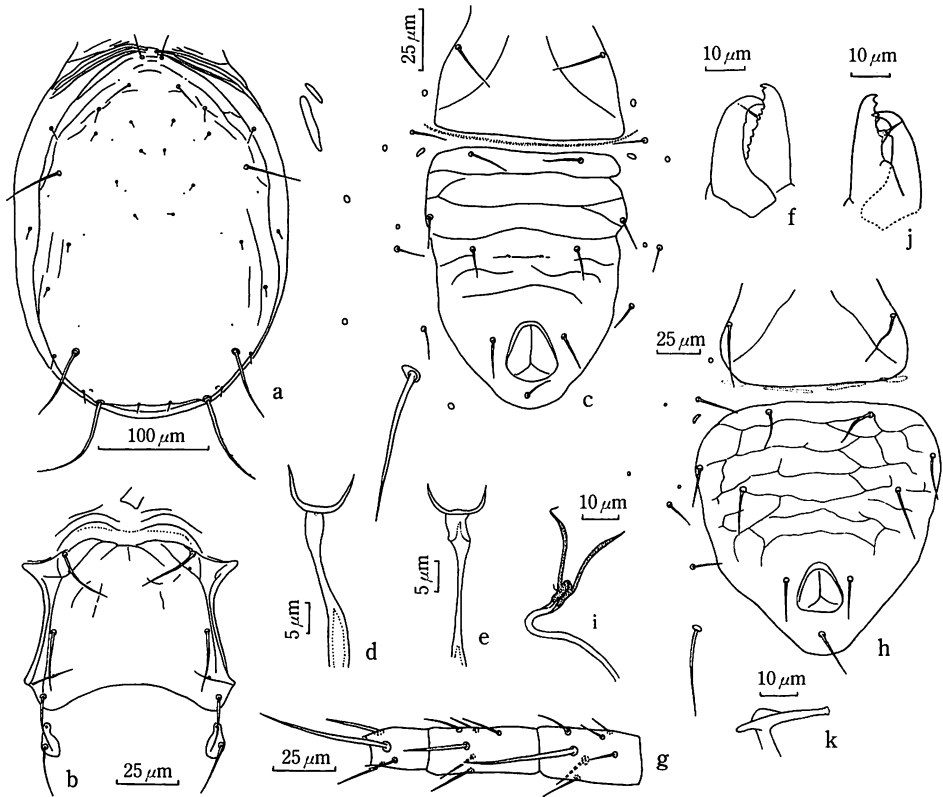


図-17 サイタマカブリダニ, ゲンヤカブリダニ

a ~ g: サイタマカブリダニ (雌), a: 胴部背面, b: 胸板, c: 腹肛板付近, d, e: 受精囊, f: 鋏角, g: IV脚の基跗節・脛節・膝節, h ~ k: ゲンヤカブリダニ, h: 腹肛板付近 (雌), i: 受精囊, j: 鋏角 (雌), k: 担精指 (EHARA, 1972; EHARA and AMANO, 1998).

— 受精囊の頸部は縦が幅よりもはるかに長い……………
……………デイリカブリダニ (45)

(44) ナンポウカブリダニ *Amblyseiulella amanoi*
EHARA (図-19, a ~ d)

雌: 背板は平滑。Z5, s4, Z4, j3はそれぞれ100, 99, 86, 82 μ m。他の胴背毛は多かれ少なかれこれらより短い。受精囊の頸部は杯状, 高さより幅が大。胸板の後縁は直線状。II脚膝節には, ようやく識別できる程度の巨大毛がある。I・III脚膝節には巨大毛がない。胴長365 μ m。本州(千葉県)のナシから記載された種 (EHARA et al., 1994)。和名の“ナンポウ”(南方)は, 本属の種が熱帯・亜熱帯に多いことに基づく。

(45) デイリカブリダニ *Amblyseiulella yaeyamana*
EHARA and AMANO (図-19, e ~ l)

雌: 背板は平滑。Z5, s4, Z4, j3はそれぞれ75, 72, 60, 49 μ m, 他の胴背毛はこれらより短く, 長さは多様。受精囊の頸部は漏斗状, 長さは幅よりもはるかに大。胸

板の後縁は出入りが多い。I・II脚膝節の巨大毛は明瞭。III脚膝節の巨大毛はないに等しい。胴長380 μ m。最近, 沖縄県竹富島のオオハマボウから記載された (EHARA and AMANO, 2002)。和名は, 胸板の後縁が出入りの多いことに基づく。

III-9 ウルマカブリダニ属 (*Paraphytoseius*)

背板の側縁はs4の近くに切れ込みをもつ。J2, S2, S4がない。S5は, ある場合とない場合とがある(背板上の胴背毛は13~14対)。IV脚の巨大毛は膝節, 脛節, 基跗節, 末跗節にあり, さらに腿節にもある場合があり, 計4~5本, いずれも末端がへら状~結節状。属の和名は, ウルマカブリダニに基づく。日本から3種が知られる (EHARA et al., 2000; EHARA and AMANO, 2004)。

ウルマカブリダニ属の日本産の種への検索表(雌)

- 1 S5がある; IV脚には, 末端がへら状~結節状の4本の巨大毛がある…ニセウルマカブリダニ(46)
- S5はない; IV脚には, 末端がへら状~結節状の

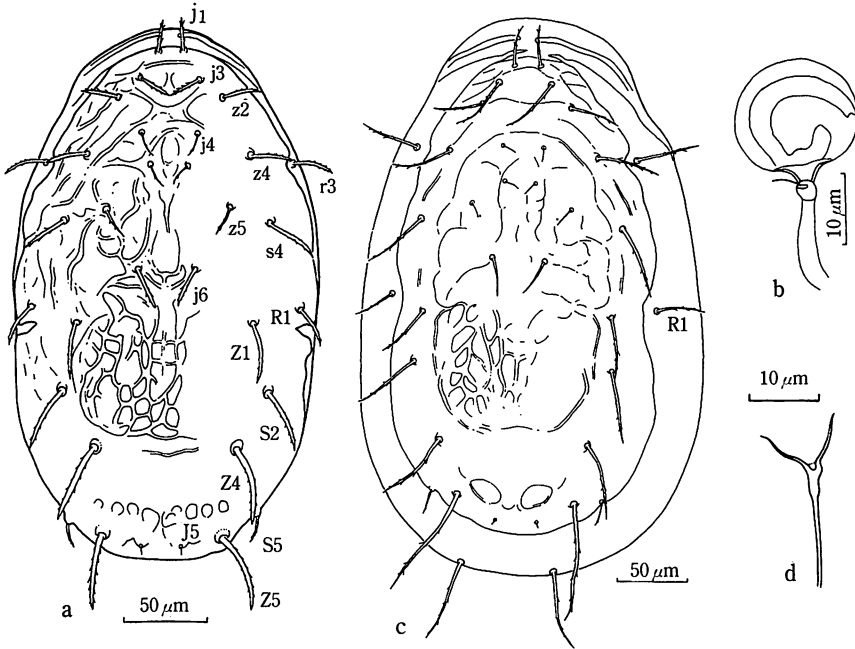


図-18 シマモリカブリダニ (雌), ハマナスカブリダニ (雌)

a: シマモリカブリダニの胴部背面, b: 同・受精嚢, c: ハマナスカブリダニの胴部背面,
d: 同・受精嚢 (EHARA, 1967 a を改変; EHARA, 1967 b; EHARA and HAMAOKA, 1980).

- 8本の毛をもち, このうち巨大毛は4~5本 … 2
2 IV脚は4本の巨大毛(膝節, 脛節, 基附節, 末附節に各1)をもつ …………… ウルマカブリダニモドキ(47)
— IV脚は5本の巨大毛(腿節, 膝節, 脛節, 基附節, 末附節に各1)をもつ …………… ウルマカブリダニ(48)
(46) ニセウルマカブリダニ *Paraphytoseius cracentis*
(CORPUZ and RIMANDO) (図-20, a ~ d)

雌: 背板は平滑。s4, Z5, j3, Z4 はそれぞれ 123, 106, 87, 77 μm , 他の胴背毛ははるかに短い。受精嚢の頸部は杯状, 連結部は顕著。II脚膝節に巨大毛がある。I・III脚の膝節は巨大毛を欠く。IV脚は, 末端がへら状~結節状の4巨大毛をもつ。背板長は280 μm 。本種はS5が存在することによって, 以下の2種から識別できる。本州, 九州; 中国, 台湾, フィリピン, タイ, シンガポール, パプアニューギニアなど。日本ではヤマグワ, クサギなどに生息。和名は, ウルマカブリダニに似ることを意味する。

- (47) ウルマカブリダニモドキ *Paraphytoseius orientalis* (NARAYANAN et al.) (図-20, g)

雌: 背板は平滑。S5がない。s4, Z5, j3, Z4 はそれぞれ 121, 100, 84, 74 μm , 他の胴背毛ははるかに短い。受

精嚢はニセウルマカブリダニによく似る。巨大毛がI・II脚の膝節にあるが, III脚膝節にはない。IV脚は, 末端がへら状~結節状の巨大毛を膝節, 脛節, 基附節, 末附節に各1本, 計4本をもつ。IV脚にはまた, へら状の非巨大毛が腿節, 膝節, 脛節, 基附節に各1本ある。背板長280 μm 。雄: 背板長230 μm 。

本州, 九州; 中国, 台湾, フィリピン, インド, パキスタン, マダガスカル, アフリカ, コスタリカ, ニューカレドニア。日本ではクズ, カジノキで見いだされている。本種は, 従来 *P. multidentatus* SWIRSKI and SHECHTER の名で知られていたが, これは最近になって *P. orientalis* の同物異名とされた (CHANT and McMURTRY, 2003)。和名は, ウルマカブリダニに酷似することによって命名された。

- (48) ウルマカブリダニ *Paraphytoseius urumanus* (EHARA) (図-20, e, f)

雌: 背板は平滑。S5はない。S4, Z5, j3, Z4 はそれぞれ 117, 87, 76, 64 μm , 他の胴背毛ははるかに短い。受精嚢は前2種によく似る。I・II脚膝節に巨大毛がある。IV脚には, 末端がへら状~結節状の巨大毛が腿節, 膝節, 脛節, 基附節, 末附節に各1本, 計5本ある。IV脚にはまた, 末端がへら状~結節状の非巨大毛が膝節, 脛節, 基附節に各1本ある。胴長350 μm 。沖縄本島,

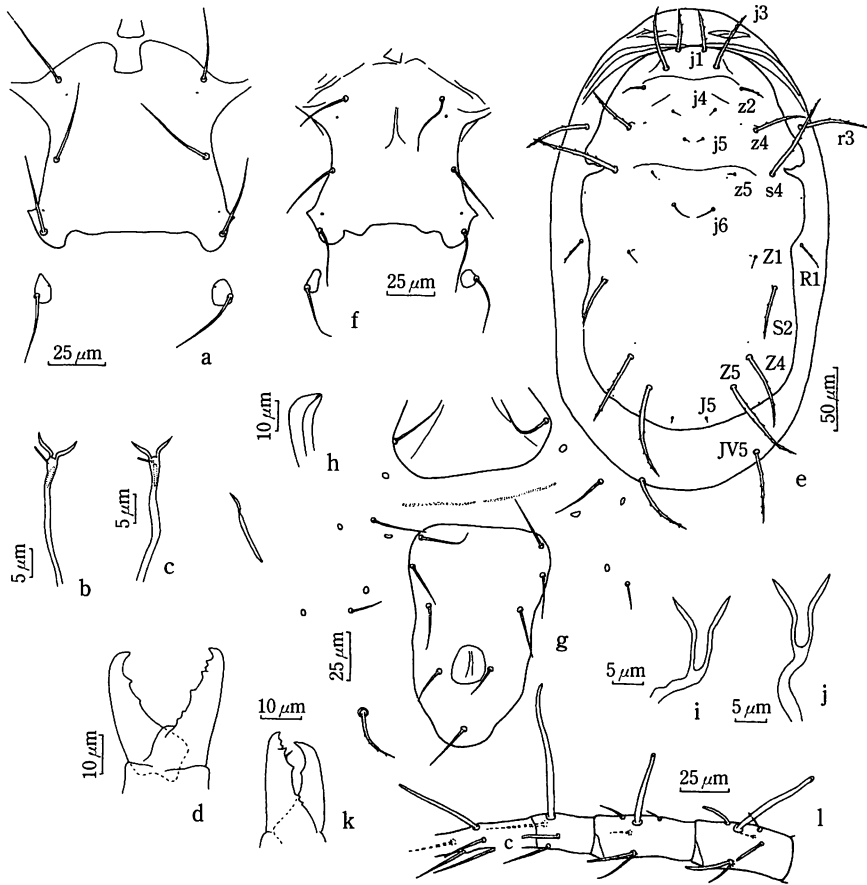


図-19 ナンボウカブリダニ (雌), デイリカブリダニ (雌)

a~d: ナンボウカブリダニ, a: 胸板, b: 受精嚢, d: 鋏角, e~l: デイリカブリダニ, e: 胴部背面, f: 胸板, g: 腹肛板付近, h: 周気管板の後端部, i, j: 受精嚢, k: 鋏角, l: IV脚の附節・脛節・膝節 (EHARA et al., 1994; EHARA and AMANO, 2002).

石垣島, 竹富島, 西表島に分布し, イヌビワ, オオハマボウ, アカメガシワ, タイワンクスから知られる。和名の“ウルマ”は沖縄を意味する古名から取った。

III-10 キイカブリダニ属 (*Indoseiulus*)

キイカブリダニ属は, 雌雄とも周気管板が背板と融合せず, 独立している点で, はなはだ特異である (図-21, a, b; カブリダニ科の他属の周気管板は, 前部で背板と融合している)。背板の後縁は凹状。S4はない。J2, Z1, S2, S5はいずれもあり, 背板上の胴背毛は16対。腹肛板の硬化は弱い。IV脚には3本の巨大毛がある。属の和名はタイプ種キイカブリダニに基づく。日本からは1種のみが知られている。

(49) キイカブリダニ *Indoseiulus liturivorus* (EHARA) (図-21)

雌: 背板は平滑。胴背毛はみな短小, 突出して長いものはない。比較的長いZ5, S2, s4はそれぞれ23, 22, 20 μ m。受精嚢の頸部は細管状で長く, 主管は連結部の近くでのみ膨れている。I・III脚膝節に巨大毛があるが, II脚膝節にはない。III脚脛節は巨大毛をもつ。胴長380 μ m。雄: 胴長310 μ m。本州, 四国; 中国, 台湾。本種は, 和歌山県貴志川町の温室のダイズ葉上でハダニやハスモンヨトウ (若齢幼虫) を捕食するとして同定依頼された標本から記載された (EHARA, 1982)。施設栽培のブドウ・果菜類にも見られ, 古味一洋氏 (高知県) によれば, ミナミキイロアザミウマの有力な天敵となるらしい。和名は紀伊 (和歌山県の旧国名) にちなむ。

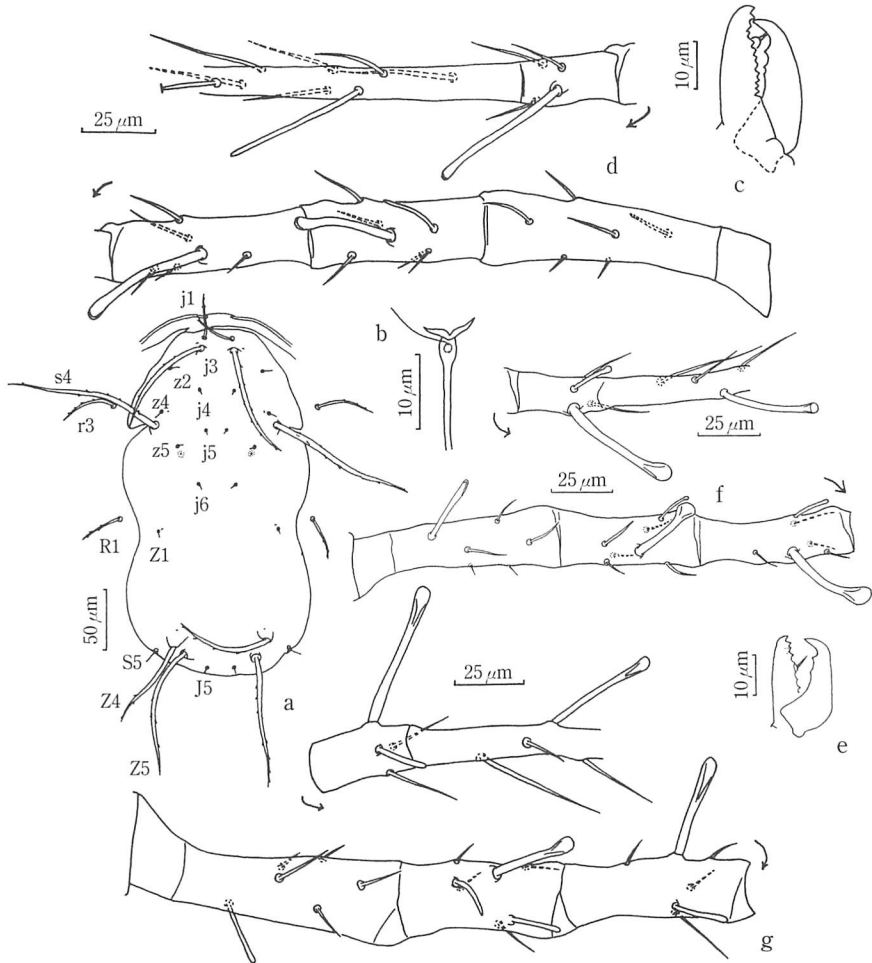


図-20 ウルマカブリダニ属の3種(雌)

a~d: ニセウルマカブリダニ, a: 胴部背面, b: 受精囊, c: 鉗角, d: IV脚, e: ウルマカブリダニの鉗角, f: 同・IV脚, g: ウルマカブリダニモドキのIV脚 (EHARA et al., 2000; EHARA and AMANO, 2004).

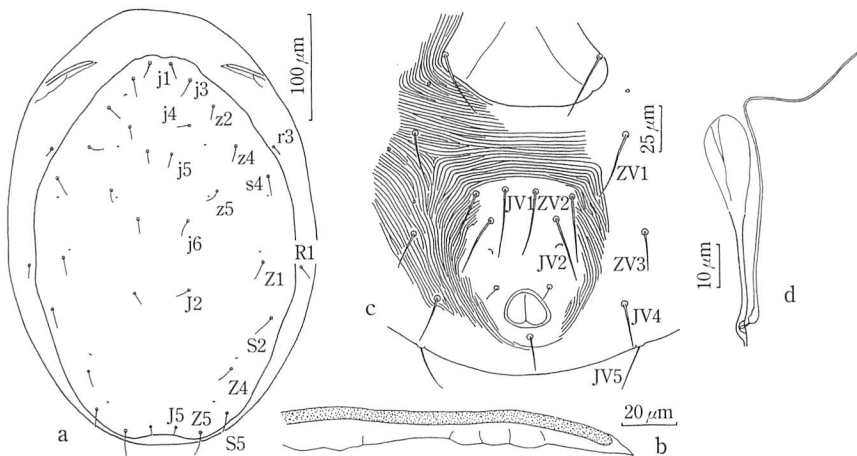


図-21 キイカブリダニ(雌)

a: 胴部背面, b: 周気管板の前部, c: 腹肛板付近, d: 受精囊 (EHARA, 1982 を改変).